

6月 テーマ：生命・心

東日本大震災から学ぶ～心と心～



海津市立南濃中学校
牧野恵忠先生

牧野先生は、平成23年6月から翌24年3月までの10ヶ月間、宮城県東松島市立矢本第二中学校へ復興支援に行かれました。

東日本大震災によって、東松島市では、約1100名の尊い命が奪われました。また、全世帯の約80パーセントの家屋が全壊もしくは半壊の被害を受けました。家や家族をなくした子どもたちが、今を生きるために現実を受け入れ、前に進もうとしている様子などを教えていただきました。

「3秒が生きるか死ぬかの境」わずかの時間差で命が奪われてしまうことがあること、そして、目の前で人が飲み込まれていくのをみた中学生の記憶、私たちの生活からは想像もつかない話でした。

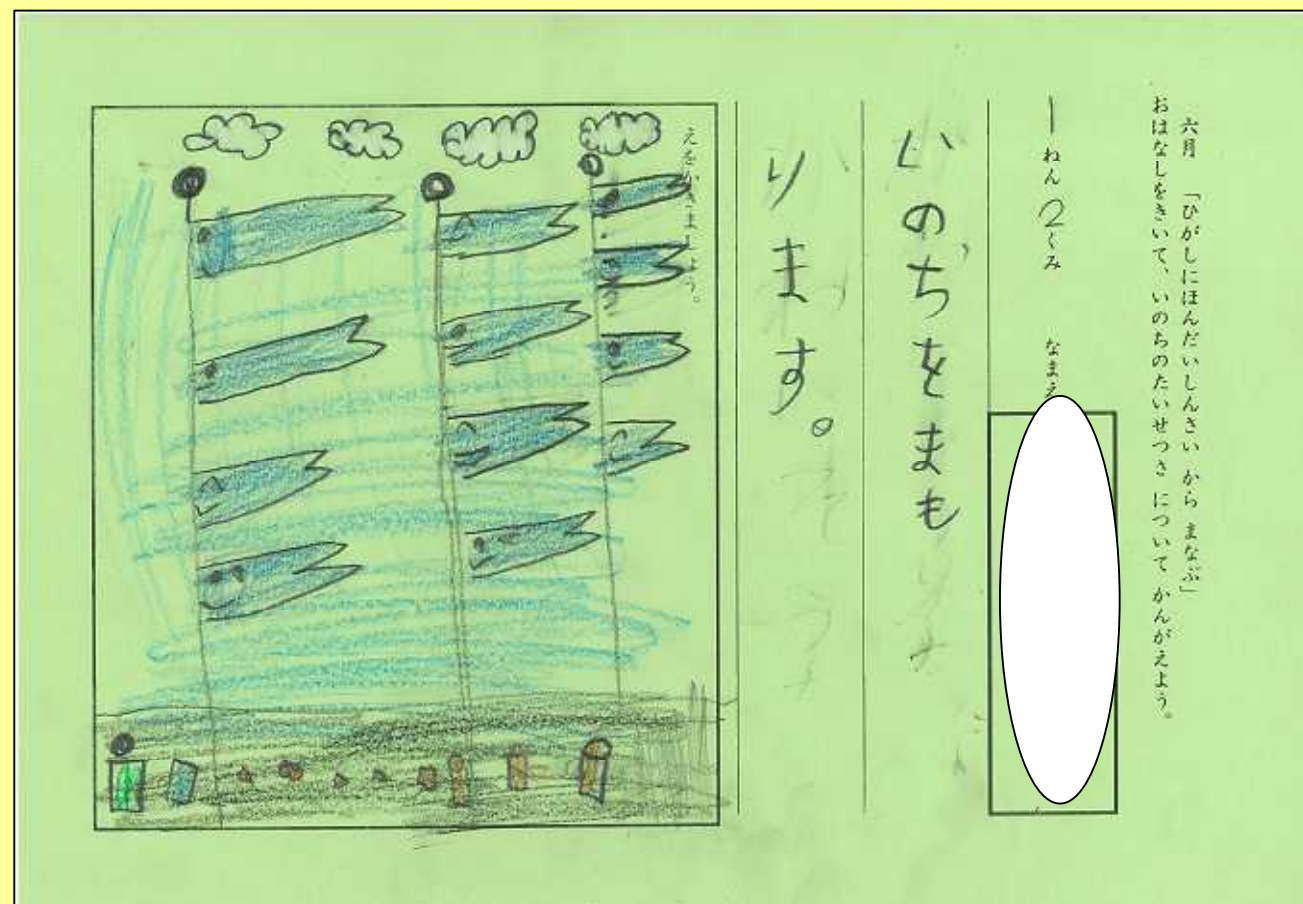
震災後2日間は、何も食べられず水を飲むこともできずにいました。やっと届いた食料も食パン1枚を3人で、ウイダーインゼリー1つを10人で分けるだけのものでした。

あたりまえだと思うこと・・・たくさんありましたね。食べること、服を着ること、友だちと話すこと、テレビをみること、そして勉強すること・・・。あたりまえにできていることが、とっても幸せなのだということがよく分かりました。学校に来て、友だちと話して、給食を食べて、家に帰る、この日常は本当に幸せなことなんです。大切にしたいですね。

温かい心で相手に接すると、温かい心が返ってきます。たくさんの温かい心に支えられました。子どもたちも、地域の人「ありがとう」の気持ちをたくさんもって生活されていました。

私たちも、温かく優しい心で、友だちや家族、地域の人に接していきたいですね。

みんなの感想

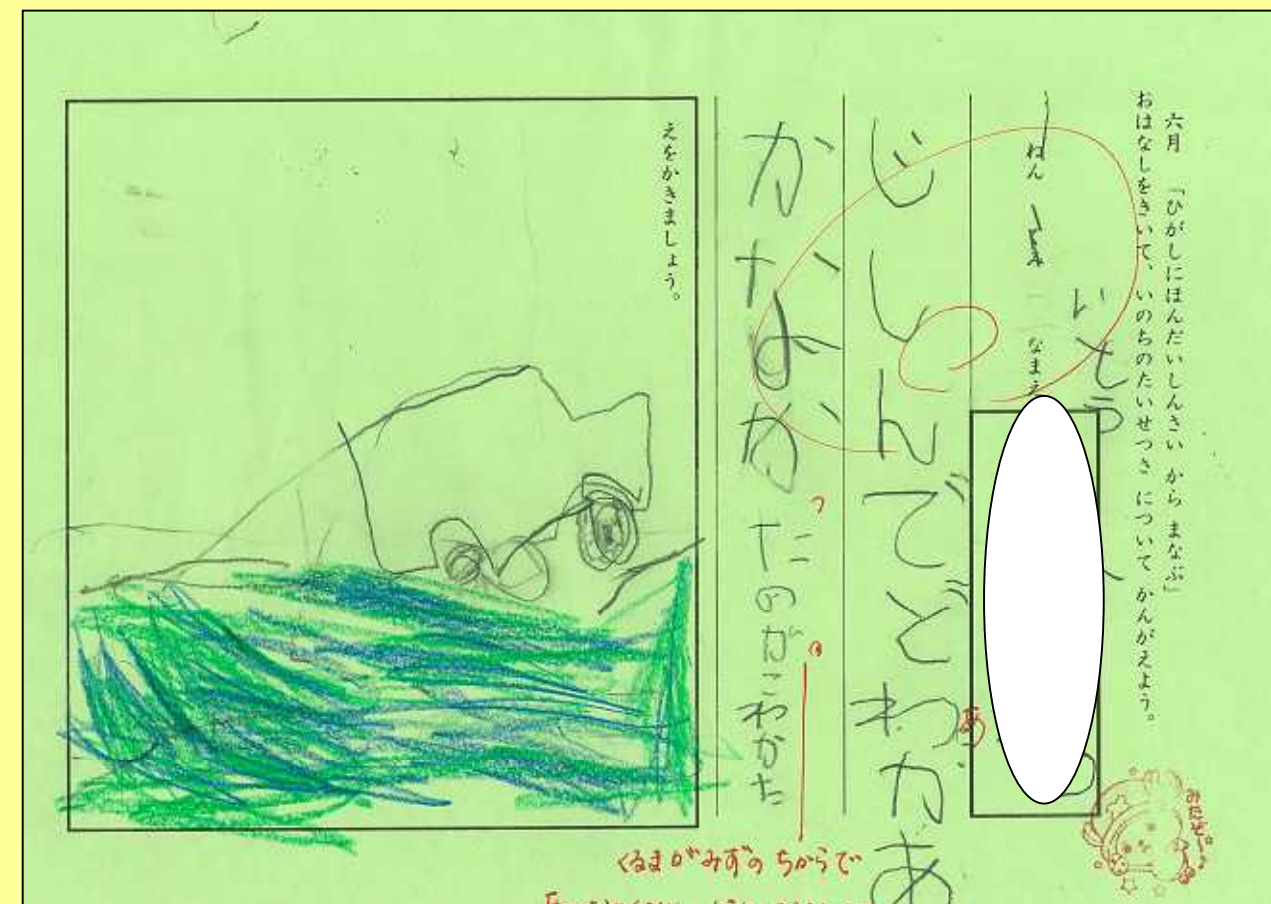


ぼくは、まきの先生の話聞いて、東日本大しんさいでたくさんの方がしんでしまったのでとてもかわいそうだと思います。ぼくがあたりまえだと思っていたことができないのでかわいそうです。

(2年1組 川田 ひとし)

わたしは、弟のためにこいのぼりをいろいろなでんしんぼうに毎年、その日にかざっているの自分の弟がだいじなんだと思いました。わたしも、みんなのことをもっとだいじにしてもっとみんなとあそんだりいろいろなことをしたりしたいなとおもいました。わたしも、じぶんのいのちはじぶんでまもって人のいのちもまもってあげたらまもってあげたいなとおもいました。

(2年2組 女児)



わたしは、まきの先生のお話を聞いて、いのちはとても大切なものと分かりました。じしんがおきて、3日後にやっとパンがとどいて、それを3人でわけるのは少ないけどそれだけでまんするのはすごいです。やっと、きゅう食がとどいてパンとぎゅうにゅうだけがまんする、それもすごいです。東日本大しんさいはすごくこわいことがわかりました。

(3年1組 松下 なお)

ぼくは、まきのさんの話を聞いて、あたりまえのことがしんさいがおきたところではできないと聞いたのでおどろきました。ぼくたちは、あたりまえのようにふろに入っているけどそれもできなくて、お母さんやお父さんもしんでしまった子もいて、とてもかわいそうに思いました。だから、いのちは大切だと思いました。

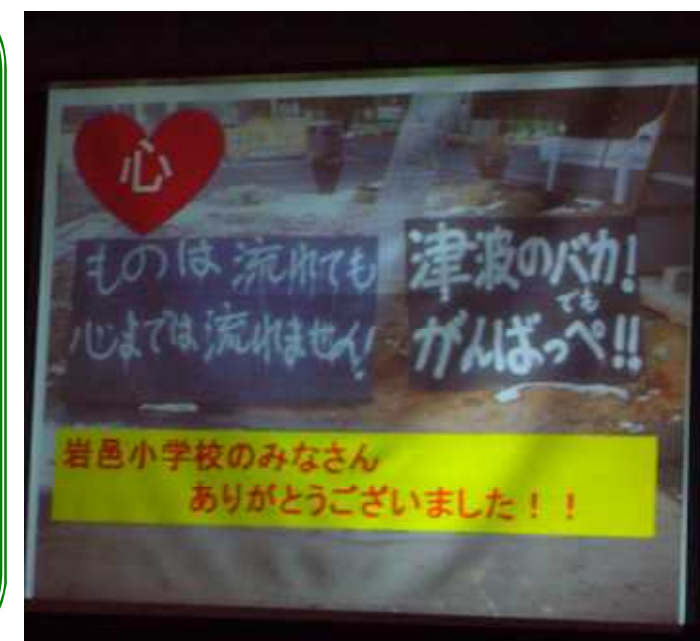
(3年1組 男児)

わたしは牧野さんの話を聞いて、毎日当たり前のことをしているけど、しんさいにあった人は、わたしがやっている「おふろに入る、ごはんを食べる、勉強ができる」ということができないので、とても苦しい生活をしていることが分かりました。一番びっくりしたことは、食パン1まいを三人で分けていることや、のみものは10人でわけることです。一番大切にしたいことは、みんな大切だけど「思いやり、命の大切さ」をわすれないように、1日を大切にしたいです。

(4年1組 後藤 結菜)

ぼくは、牧野先生の東日本大震災の話を聞いて、かわいそうだと思います。震災があったときから、3日間もごはんを食べれずにふとんがなくて、あってもカーテンぐらいしかないなんてぼくでは、とても生きられないと思います。ぼくの命があるのはお母さんとお父さんもおじいちゃんもおばあちゃんも、ひいじいちゃんもひいばあちゃんもそのまたおばあちゃんもごせんぞさまが生んでくれたからだと思っています。お母さんたちに感しゃしたいです。

(4年2組 男児)



私は、牧野先生の話を聞いて、一番心に残ったのは「三秒が生死のさかい」という言葉です。この言葉は絶対、一生心に残ると思います。私が同じことを体験したところを想像するだけで、なみだがあふれそうになりました。そして、もう一つ心に残ったのは食料の少なさです。一日の食べ物が食パンの3分の1で飲み物がウイダーゼリーを10人で分けるなんて考えられません。だけど、だれ1人文句をいわなかったのはとてもすばらしいことだと思います。

これからは、仲間、家族、食料、すべてにかんしゃしたいし、大切にしたいです。

(5年1組 女児)

牧野先生の話を聞いて、生きているということは本当に大事なことでと改めて思います。1日に5回くらい「ありがとう」が言えるといいと思いました。今、ご飯を食べることやふとんでねることはあたりまえだけどそのあたりまえはとっても幸せなことだと今日わかりました。わたしは好ききらいがたくさんあるけどなるべく少しは残してもいいけど少しでも食べ物をなくしていきたくたいです。そのためにきらいでも食べてみないとわからないことだってあるから3口くらい食べるようにしたいです。じしんはいつくるかはわからないのでいつきても命を守れるようにおはしもなどを心にしまっておき自分の命を守りたいです。目や足や手や耳があるのは友達を助けたりしゃべったりするためにあることを忘れません。何があってもだいじょうぶのように心がけておきたいです。

(5年2組 男児)

お話を聞いて、思ったことは「食事ができる幸せ」です。私は、好ききらいがあり、よく残すことがあります。だけど、食べ物があるということはとても幸せで、すごいことなんだと思いました。そして、一日三回食べられることもすごく幸せだと感じました。そして、「仲間の大切さ」「いじめなし」「ありがとうの言葉」仲間がすごく私の支えになっています。「いじめ」この言葉はなくなってほしいです。「いじめ」をして良いことは一つもありません。「ありがとう」の言葉がたくさん増えるといいです。そして、家族と仲間を今まで以上に大切に、私の宝物になるようにしたいです。

(6年1組 女児)

牧野先生の話を聞いて、あたりまえだと思っていることでも、よく考えるとたしかに幸せなことなんだなとあらためて思いました。1日の食料が少なくても食べられるだけで幸せなんだなと思いました。仲間というのは、すごく大事なそんざいなんだとよくわかりました。人は、やさしい言葉を使われるとみんながやさしい言葉で返ってくるからこれからはいやなことを言わずやさしい言葉を使っていきたくたいと思いました。どんなにつらいことがあっても仲間がいれば立ち直れるとわかりました。

(6年2組 男児)